



“すべてのカップルに幸せを”というテーマで *LGBTQ WEDDING* を実施している最明寺で撮影が行われました。寒い1日でしたが、ふたりの笑顔で心がとても温かくなりました。

プロのカメラマンさんも入り、本格的な撮影が行われた当日。レインボーさいたまの会からは、会員の私（みさきと言います。皆さまよろしくお祈りします！）が撮影に伺いました。

お客さんからポーズの提案があるなど、和気あいあいとした雰囲気でも自然な笑顔が多く残せたように思います。

以前のニュースレターでもインタビューに答えてくださった最明寺。花手水の写真もとても美しいので、*Instagram* (@saimyouji) を要チェック。



# 開花

— B L O O M —

2021.03.06 発売予定

天明三年（1783）から続く埼玉県川越市の老舗和菓子メーカー  
亀屋さんが「レインボー和菓子、開花—bloom—」を発売します。  
「亀屋」×「最明寺」×「レインボーさいたまの会」  
コラボ和菓子のひみつや制作への思いを亀屋の  
代表取締役 山崎共子さん、専務取締役 山崎淳紀さん  
にお聞きしました。Q&Aでたっぷりお届けします！



約1時間、貴重なお話を伺い  
LGBTQ+だけでなくジェンダー  
平等への意識も印象的でした。  
伝統を守ることと商品開発で  
すべての人の平等に対するサポート  
を表すことの両立へ踏み出した  
企業が地元にあることはとても  
誇らしいです！（筆者談）

## Q. レインボー和菓子開発のきっかけは？

日本橋三越で毎春行われている全国銘菓展。2019年に行われた第73回のテーマ「恋と和菓子は人生だ。」に合わせて制作した和菓子「虹」がはじまりでした。制作行程の制限で6色のレインボーではないものの、LGBTQ+当事者やアライが見たら「おっ！」と思うようなデザインとだれでも写真に撮りたくなるような可愛い色合いで人気を呼びました。

最明寺のフードパントリーに食品を持っていったご縁もあり、市内の和菓子屋彩乃菓さんとのコラボ和菓子の話をしたのがきっかけです。

## Q. 川越の老舗企業として川越をどのようにしていきたいですか？

伝統の残る観光地として最近新しいお店もできましたが、川越は保守的な部分もあります。“変わり者が世の中を変える”と言われるように、もっと川越の外、和菓子の外に向かっていけないかと考えています。

現状、他の老舗和菓子屋で実践しているところは少なく、その点でレインボー和菓子はやってよかったと思っています。売り上げもひとつの指標ですが、川越の企業や同じ和菓子/洋菓子業界がLGBTQ+やジェンダー平等に意識を持ってくれるようになればと思っています。

## Q. 薔薇の花に込めた想いやこだわりは？

最明寺の千田さんが「花とかいいんじゃないですか？」と提案してくださって。練り切りでレインボーカラーの花びらを一枚一枚合わせて成形します。一度にたくさん作るのには難しく一日に30個~40個しか制作できません。色ごとにまとめて作ると早いんですけど、紫→青→緑…と少ない数で一つずつ作っていきます。

